

[Research Report]

## **A study of qualities requisite for students in the nursing profession**

Tomomi Tsujino\*, Noriko Ueno\*, Takumi Ogata\*  
Tomoko Yamaguchi\* and Masako Yano\*

\* Aino University

### **Abstract**

The purpose of this study was to clarify the ideals and problems in basic nursing education. We performed factor analysis to investigate the factor structure of the question items for the survey "Qualities Requisite for Students in the Nursing profession".

The survey was conducted on 88 1st year nursing students at university following the completion of the final examination. The average score of the all items was 3.21 (SD 0.66) and overall affirmative replies were obtained. This result suggests educational methods, such as the method of basic nursing practice at an early stage or exercise of basic nursing technique, work effectively. By applying factor analysis, the following three factors were extracted. We determined these three factors as "self-understanding in order to understand others and maintain good relations", "skills and ability based on scientific thinking", and "a sympathetic toward others".

**Key words** : nursing students, qualities requisite for students in the nursing profession, basic nursing education

## 看護学生の看護職者としての資質に関する研究

辻野 朋美\*, 上野 範子\*, 緒方 巧\*  
山口 智子\*, 矢野 正子\*

**【要旨】** 本研究の目的は、看護基礎教育のあり方や課題を明確にするために、看護系大学1年生を対象に行った「看護学生の看護職者としての資質」の調査結果と、調査項目の因子構造を検討することである。1年次後期試験終了後に、看護系大学の1年生88名を対象とし、「看護学生の看護職者としての資質」の調査票を用いて調査を実施した。質問項目全体の平均値は3.21 (SD 0.66) であり、肯定的評価が多かった。その理由として、早期に行った基礎看護学実習や対象学生の技術演習の方法などの教育方法の効果が示唆された。因子分析を行った結果、3因子42項目の因子解が抽出された。各因子は項目内容により「他者理解や関係性を保つための自己理解」、「科学的思考力に基づいた技能性」、「他者に対する共感性」と命名した。

キーワード：看護学生、看護職者としての資質、看護基礎教育、教育評価

### I. はじめに

患者の権利意識の向上や国民の医療サービスへの要望の変革、福祉・介護を含むケア体制の変革など、わが国の医療を取り巻く社会の状況は著しく変化している。より安全で質の高い医療・看護への要請から、看護学の人材育成における社会のニーズや国民の期待は高まっているといえよう。社会のこのような期待を背景に、わが国の看護職者の教育制度も大きく変化した。長期にわたり、看護職者の育成は、医療機関に付置される専門学校等において行われてきたが、1992年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行後、看護学教育の大学化が急速に進展した<sup>1)</sup>。また、少子高齢化や核家族化、情報化社会などの現代の社会背景から、看護基礎教育を受ける学生の変化も著しい。社

会人入学や編入学などの学習機会の拡大に伴い、社会人経験のある学生や、家庭を持つ学生など、さまざまな背景の学生が増えている。そのうえ、学生の生活背景や生育環境、学習環境などの多様化や、日常生活習慣や生活技能の変化も看護基礎教育を受ける現代の学生の特徴である。

このような背景から、看護基礎教育は、いま、豊かな人間性を兼ね備えた資質の高い看護職者の育成が問われており、この要請に応えていくためにも、社会に対して大学の卒業生の能力の質を保証し、大学の社会的説明責任を遂行していく必要がある。看護学教育のあり方に関する検討会より、2002年3月に「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」<sup>2)</sup>、2004年3月に「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」<sup>3)</sup>の報告がなされ、各大学が個性ある

\* 藍野大学

教育活動を発展させるために、看護学教育のあり方を模索、検討している。このような取り組みを行っていくうえで、各大学において、教育全般の質の向上や学生の学習成果の向上を目的に、教育評価を適切に行い、その結果を教育活動に還元させていくことは非常に重要である。教育評価の目的のひとつとして、教育の具体的目標がどの程度達成されたかということがあげられる。看護学教育における具体的目標とは、看護職者に求められる資質を兼ね備えた看護専門職者そのものである。また、看護を生涯教育ととらえるならば、看護基礎教育は、看護職の資格を得るための教育ではなく、将来変化する看護の役割を引き受け、看護の本質を追及していけるような基礎的能力を引き出すことであろう。したがって、看護基礎教育においては、将来の看護の発展に寄与することのできる、看護職者に求められる資質の育成を目標とし教育活動を行っていくことが望ましい。

学生の教育方法と教育評価の検討に関連した研究は、これまで数々行われてきている。その中でも、様々な学習・教育方法を考案し、その教育効果を質問紙調査によって評価した研究<sup>4-7)</sup>や、実習の学習効果を実習後のレポートや質問紙票によって評価した研究<sup>8, 9)</sup>などが報告されている。また、看護教育における具体的目標である看護職者としての資質に関連した先行研究は、看護学生の看護職者としての職業意識形成に関する研究<sup>10)</sup>や、看護学生の看護職に対するイメージと看護職への志向性や学習姿勢との関連を調査した研究<sup>11-13)</sup>があるが、いずれも学生の看護職に対する認識をもとに調査したものである。看護職者を目指す学生に、看護職者に求められる資質がどのくらい備わっているのかを評価した研究は見当たらない。

そこでわれわれは、看護学生を対象とした、看護職者に必要とされる能力を評価する指標として、[看護学生の看護職者としての資質]の調査票を作成した。今後この調査票を用いた教育評価を縦断的に行い、その結果をもとに看護基礎教育のあり方や、学生を教育していく上での課題を明確にしていきたいと考えている。

以上の研究背景をふまえ、本研究においては、看護系大学1年生を対象に行った[看護学生の看護職者としての資質]の調査結果を報告する。また、この調査結果をもとに、質問項目間の因子構造について検討したのでここに報告する。

## II. 研究目的

本研究の目的は、看護基礎教育のあり方や課題を明確にするために、看護系大学1年生を対象に行った[看護学生の看護職者としての資質]の調査結果と、調査項目の因子構造を検討することである。

## III. 研究方法

### 1. 研究対象者

#### 1) 研究対象者

関西圏内にある看護系大学の1年生 88名

#### 2) 対象学生の基礎看護学の学習進度と内容(表1)

大学の開校の初年度であったため、1年前期後半から基礎看護学が開講された。したがって、6月に講義や演習が集中していた。

#### 3) 対象学生の学習方法の特徴

対象学生の基礎看護学教育の特徴は、技術演習の方法に、緒方式ジグソー学習法を用いていることである。

#### 4) 緒方式ジグソー学習法について

緒方式ジグソー学習法は、エリオット・アロンソン<sup>14)</sup>らによって考案されたジグソー学習法を改変した学習法である。

ジグソー学習法は、エリオット・アロンソンに師事した松山安雄<sup>15)</sup>によって日本に紹介された。この学習法は、まず学習教材を4つの課題に分割し、4人編成の小グループ内でその学習課題を分担する。その後、クラス内で同一課題を担ったメンバー同士が4つの学習課題別に集まって学習しあい(カウンターパート・セッション)、学習が終えたら各自が元の小グループに戻って他のメンバーに教授する(ジグソー・セッション)学習法である。緒方式ジグソー学習法では、①分割された学習課題を学習しあうカウンターパー

表1 対象学生の基礎看護学の学習進度と内容

単 元	教育形態・時期
環 境	講義(6月)
コミュニケーション	講義(6月)
情報収集・観察	講義(6月)
バイタルサイン	講義(6月)・演習(6月, 7月, 9月)
記録・報告	講義(6月)
安全・安楽	講義(6月)
ボディメカニクス	講義(6月)・演習(9月)
身体 の 清潔	講義(10月)・演習(10月, 11月)
食 事 の 援 助	講義(10月)・演習(10月)
衣 生 活	講義(10月)・演習(10月)
ベッドメイキング(環境)	演習(10月)
基礎看護学実習 I	7月5日~7月9日(1週間)

ト・セッションの際に、学生個々の基礎看護技術の習得を目的とした主体的学習を強化する、②小グループ毎にジグソー・セッションを行う際に、グループ内で教師役をする学生が担当した学習課題の基礎看護技術を教員がセッション前に評価し、徹底した個別指導を行う、の2点を改変した<sup>16)</sup>。著者らは、この学習の効果として、学生の「知識・技術の習得」、「責任感や学習意欲の向上」、「コミュニケーションや表現力の向上」、「学生間の人間関係の形成」、「指導力の育成」などを報告してきた<sup>17, 18)</sup>。

対象学生においては、表1のうち、バイタルサインと身体の清潔、ベッドメイキングの演習で、緒方式ジグソー学習法を用いた。

## 2. 調査期間

2005年2月28日、3月1日

## 3. 調査方法

### 1) 調査内容

#### ① [看護学生の看護職者としての資質]の調査票の作成

[看護学生の看護職者としての資質]の調査票を作成するにあたり、2004年7月に同じ対象学生に実施した、「看護職者に必要な資質」の自由記述の内容分析を行なった。自由記述で得られた411のキーワードを、K-J法を用いて分類した。得られた411のキーワードをさらに4つのカテゴリーに分類し、看護学教育のあり方に関する検討会報告書<sup>2, 3)</sup>や看護師の資質に関する先行研究<sup>19)</sup>、看護職のイメージに関する先行研究<sup>11-13)</sup>、看護学教育の評価に関する文献<sup>3, 20)</sup>などを参考にし、54の質問項目から構成された無記名自記式の調査票を作成した。回答の選択肢については、「できた・理解できた(4点)」、「大体できた・大体理解できた(3点)」、「あまりできなかった・あまり理解できなかった(2点)」、「できなかった・理解できなかった(1点)」の4段階の回答方法とした。この調査票の回答は、学生の自己評価であり、学生の現在の到達度を学生自身の主観に基づいて評価した結果である。回答方法を自己評価にしたのは、自己評価が、自分で自分の学業、行動、性格、態度などを評価し、そこから得た知見によって自分を確認し、今後の学習や行動を改善、調整する自発的、自律的な機能を持つ<sup>21)</sup>と考えたためである。看護基礎教育の対象の多くは青年期・成人期に該当する成人

学習者であるため、適切に自己評価を行っていくことは、自発的、自律的な学習展開を促し、自己の学習課題を見出していく中で内発的動機付けを高めていけると考えた。

#### ② 基本的属性

属性の内容は、性別、年齢、医療・福祉・介護に関する資格の有無とした。

### 2) データ収集方法

調査票の技能性に関する項目は、調査時点での既習の単元に照らした回答を行ってもらうことが適切であると判断し、調査の時期を1年次後期実技試験終了後に調整した。調査に関する説明は事前に行い、実技試験終了後に調査票の記入ができるように、試験会場に別室を設け、その場で回答してもらい、回収した。

### 3) 倫理的配慮

実技試験の説明会の際に、事前に対象学生へ研究の趣旨を説明した。自由意志による調査協力であること、調査協力の有無と成績や個人の評価には何ら関係がないこと、研究以外に回答結果を利用しないこと、個人が特定できるような形で公表しないことについて口頭で説明を行った。承諾が得られる場合のみ、調査票の記入を行うように説明をした。

## 4. 分析方法

収集したデータは、統計解析プログラムパッケージSPSS for Windows 11.0Jを用いて分析した。[看護学生の看護職者としての資質]の質問項目の因子構造については、まず各項目の回答を点数化し、回答分布の偏りの著しい項目を削除し、主因子法バリマックス回転で因子の抽出を行った。各因子の内的整合性の検討にはCronbach  $\alpha$  係数を求めた。

## IV. 結 果

### 1. 調査表の回収率

本研究の協力を依頼した看護系大学1年生88名のうち、82名(93.2%)から回答を得た。

### 2. 対象学生の属性(表2)

対象学生は、女性72名(87.8%)、男性10名(12.2%)で、その年齢構成は、18～20歳が74名(90.24%)、21～25歳が2名(2.44%)、31歳以上が6名(7.32%)であった。医療・福祉・介護に関する資格を持ってい

る学生は9名(11%)で、資格の種類は准看護師が5名、ホームヘルパーが3名、無回答が1名であった。

### 3. 質問項目の平均値、標準偏差、得点分布(表3)

[看護学生の看護職者としての資質]の質問項目の平均値、標準偏差と得点分布を表3に示す。全体的に肯定的な回答が多く、質問項目全体の平均値は3.21(SD 0.66)であった。4つのカテゴリーの平均値は、技能性3.29(SD 0.62)、情緒性3.14(SD 0.75)、関係性

3.16(0.67)、主体性3.25(0.66)であり、技能性の平均値が最も高かった。平均値が最も高い質問項目は、技能性の「2:各看護技術を実施する必要性について理解できましたか」で、平均値3.61(SD 0.52)であった。平均値が最も低い質問項目は、情緒性の「20:あなたはどのような状況でも冷静に物事を考えることができますか」で、平均値2.77(SD 0.81)であった。

### 4. [看護学生の看護職者としての資質]の因子分析の結果(表4)

各質問項目間の関係性の高い因子を抽出するため、以下の因子分析を行った。回答分布の偏りの著しい9項目を削除し、初回の因子分析を行ない、累積寄与率50%以上の3因子を抽出した。再度因子数を3に限定し、因子分析(主因子法バリマックス回転)を行った。その結果、因子負荷量0.4未満の3項目を除外した42項目からなる3因子が抽出された。3因子の累積寄与率は46.7%である。

各因子に属する項目の内容を解釈し、因子名の命名

表2 対象者の属性

項目	カテゴリー	N	%
性	男	10	12.2
	女	72	87.8
年齢	18-20歳	74	90.3
	21-25歳	2	2.4
	26-30歳	0	0.0
	31歳以上	6	7.3
資格の有無	なし	73	89.0
	あり	5	6.1
	ホームヘルパー	3	3.7
	無回答	1	1.2

表3 質問項目の平均値、標準偏差、得点分布(1)

質問項目	平均値	標準偏差	できな	あまりでき	大体	できた
			かった (理解でき なかった) %	なかった (あまり理解 できなかった) %	できた (大体理解 できた) %	できた (理解 できた) %
<b>I. 技能性</b>						
1 各看護技術を実施する目的について理解できましたか	3.41	0.54	0	2.4	53.7	43.9
2 各看護技術を実施する必要性について理解できましたか	3.61	0.52	0	1.2	36.6	62.2
3 各看護技術の手順について理解できましたか	3.41	0.52	0	1.2	56.1	42.7
4 患者の身体の状態を考慮した方法を考えることができましたか	3.29	0.62	0	8.5	53.7	37.8
5 患者の気持ち、考え、思いや要望を考慮した方法を考えることができましたか	3.37	0.60	0	6.1	51.2	42.7
6 準備(看護師の準備、物品・環境の準備、対象者の準備)は原理原則に基づいて実施できましたか	3.39	0.58	0	4.9	51.2	43.9
7 実施(実施方法、手順、実施の時間)は原理原則に基づいて実施できましたか	3.14	0.67	0	16	54.4	29.6
8 後始末(物品の後始末、環境整備)は原理・原則に基づいて実施できましたか	3.34	0.63	0	8.5	48.8	42.7
9 患者の反応を観察しながら実施できましたか	3.26	0.66	0	12.2	50	37.8
10 実施した技術の結果を客観的に評価できましたか	3.16	0.60	0	11	62.2	26.8
11 各看護技術の実施前に説明(目的、必要性、効果)はできましたか	2.88	0.73	3.7	21.9	57.3	17.1
12 各看護技術を安全に実施する方法を判断できましたか	3.18	0.69	1.2	12.2	53.7	32.9
13 各看護技術を安全に実施できましたか	3.33	0.67	0	11	45.1	43.9
14 患者にとっての安楽な方法を判断できましたか	3.27	0.57	0	6.1	61	32.9
15 患者に安楽な方法で実施できましたか	3.24	0.64	0	11	53.6	35.4
16 看護技術の全実施課程でプライバシーを考慮してできましたか	3.38	0.60	0	6.2	49.4	44.4
17 実施後の報告の必要性(報告の方法・時期・内容)を理解できましたか	3.28	0.65	0	11	50	39
カテゴリー I. 技能性 平均値	3.29	0.62				
<b>II. 情緒性</b>						
18 あなたは優しい気持ちや愛情を持って相手と接していますか	3.44	0.59	0	4.9	46.3	48.8
19 あなたは自分がつらいときでも笑顔で明るくふるまう事ができますか	3.22	0.77	2.4	13.5	43.9	40.2
20 あなたはどのような状況でも冷静に物事を考えることができますか	2.77	0.81	6.1	28	48.8	17.1
21 あなたは相手から親しみをもちたれるように意識していますか	3.12	0.81	4.9	12.2	48.8	34.1
22 あなたは相手に自分の心を開くことができますか	3.04	0.71	1.2	19.5	53.7	25.6
23 あなたは忍耐づよいと思いますか	3.24	0.84	3.7	14.6	35.4	46.3
カテゴリー II. 情緒性 平均値	3.14	0.75				

表3 質問項目の平均値、標準偏差、得点分布(2)

質問項目	平均値	標準偏差	できな	あまりでき	大体	できた
			かった (理解でき なかった) %	なかった (あまり理解 できなかった) %	できた (大体理解 できた) %	できた (理解 できた) %
<b>III. 関係性</b>						
24 あなたは普段から、相手に対しての気配りや配慮ができていますか	3.25	0.60	0	8.6	58.1	33.3
25 あなたは会話をするとき、丁寧な言葉遣いで会話をしていますか	2.88	0.76	3.7	24.7	51.8	19.8
26 あなたは会話をするとき、相手のペースに合わせた会話(声の大きさ、スピード、高音低音)をしていますか	3.00	0.73	2.5	18.5	55.5	23.5
27 あなたは会話をするとき、あいまいな表現や説明不足による誤解が生じないように心がけていますか	2.79	0.72	1.2	34.1	48.8	15.9
28 あなたは会話をするとき、相手の話に共感を持って聴くことができますか	3.30	0.66	1.3	7.5	51.2	40
29 あなたは会話をするとき、表情やうなずき、身振り手振りを使って相手に反応を示していますか	3.37	0.60	0	6.1	51.2	42.7
30 あなたは会話をするとき、相手の価値観やあるがままの姿を受け入れて話を聴くことができますか	3.15	0.62	0	12.3	60.5	27.2
31 あなたは相手の立場に立ってものごとを考えていますか	3.18	0.57	0	8.5	64.7	26.8
32 あなたは相手を立てるといった謙虚さを常に意識していますか	3.16	0.64	0	13.4	57.3	29.3
33 あなたは相手の質問に対して、丁寧に答えていますか	3.11	0.63	0	14.6	59.8	25.6
34 あなたは相手を尊重した態度をとっていますか	3.01	0.64	1.2	15.9	63.4	19.5
35 あなたは相手が好感を持てるような対応を心がけていますか	3.15	0.71	2.4	11	56.1	30.5
36 あなたは、相手に清潔感を与えるような身だしなみを心がけていますか	3.27	0.74	1.2	13.4	42.7	42.7
37 あなたは、その場の状況に応じた身だしなみを心がけていますか	3.21	0.67	1.2	9.9	55.6	33.3
38 あなたは相手を信頼することができますか	3.19	0.71	2.5	9.9	54.3	33.3
39 あなたは対人関係において、相手と信頼関係を築くための努力をしていますか	3.32	0.72	2.5	7.4	45.7	44.4
40 あなたはグループで一つの課題に取り組むとき、他のメンバーと協調して取り組めますか	3.32	0.67	1.2	7.4	49.4	42
41 あなたはグループで一つの課題に取り組むとき、メンバーの一員として全力を尽くしますか	3.41	0.72	1.2	9.9	35.8	53.1
42 あなたはグループ活動を行うとき、共通の課題を明確にできますか	3.22	0.65	1.2	8.7	56.8	33.3
43 あなたはグループ活動を行うとき、メンバーを公平に評価できますか	3.19	0.67	1.2	11.1	55.6	32.1
44 あなたはグループ活動の中で、対立した意見や不満を解消しようと心がけていますか	3.19	0.69	1.2	12.4	53.1	33.3
45 あなたは看護学生としての自分の役割を理解していますか	3.05	0.69	2.5	13.5	60.5	23.5
46 あなたは社会の一員としての自分の役割を理解していますか	2.90	0.72	3.7	19.8	59.2	17.3
47 あなたは家族の一員としての自分の役割を理解していますか	3.15	0.67	1.2	12.4	56.8	29.6
48 あなたは常識的な考え方をしていますか	3.16	0.68	1.2	12.3	55.6	30.9
カテゴリーⅢ、関係性 平均値	3.16	0.67				
<b>IV. 主体性</b>						
49 あなたは常に責任を自覚していますか	3.17	0.69	1.2	12.4	54.3	32.1
50 あなたは与えられた課題に対して、責任を持ってやり遂げていますか	3.35	0.67	0	11.1	43.2	45.7
51 あなたは周囲の出来事・状況を敏感にとらえていますか	3.16	0.64	0	13.6	56.8	29.6
52 あなたは、ある出来事に対しての疑問や課題を発見したら、解決に向けての何らかの行動をとりますか	3.16	0.62	0	12.3	59.3	28.4
53 あなたは自分の将来の目標を持っていますか	3.53	0.59	0	4.9	37.1	58
54 あなたは、自分の将来の目標を達成するために、自主的な行動がとれていますか	3.15	0.73	1.2	16.1	49.4	33.3
カテゴリーⅣ、主体性 平均値	3.25	0.66				
全質問項目の平均値	3.21	0.66				

を行った。第1因子は、相手に好感や親しみ感を与えているか、グループ間での関係性を保持するための取り組み、自分の役割に対する認識、場の状況に応じた対応、目標や課題に対する行動力などの項目が含まれた。これらの項目は、他者を理解することや、他者との関係性を保つために努力をすることで到達する自己理解に関連した内容であると解釈し、「他者理解や関係性を保つための自己理解」とした。

第2因子の項目は、既習の単元を対象とした評価であり、看護実践能力の認知領域と実践の到達度である。既習の基礎看護技術を、科学的根拠に基づいて理解することを含んでおり、「科学的思考力に基づいた技能性」と命名した。

第3因子は、相手に対する気配りや配慮、相手に対する尊重の気持ちや謙虚さ、相手の価値観を理解し受け入れること、相手に合わせたコミュニケーションなどで構成されていた。相手の状況を的確に判断し、相手の立場に立って、共感的な態度で接するといった、看護者にとって重要な資質であり、「他者に対する共感性」と命名した。

内的整合性を示す Cronbach  $\alpha$  係数は、第1因子「他者理解や関係性を保つための自己理解」が0.91、第2因子「科学的思考力に基づいた技能性」が0.90、第3因子「他者に対する共感性」が0.90で、いずれも高かった。

辻野他：看護学生の看護職者としての資質

表4 [看護学生の看護職者としての資質] の因子分析の結果

質問項目	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
<b>第1因子：他者理解や関係性を保つための自己理解</b>				
21 あなたは相手から親しみをもたれるように意識していますか	0.72	0.11	0.28	0.61
37 あなたは相手を信頼することができますか	0.72	-0.06	0.07	0.52
41 あなたはグループ活動を行うとき、共通の課題を明確にできますか	0.68	0.26	0.16	0.56
39 あなたはグループで一つの課題に取り組むとき、他のメンバーと協調して取り組みますか	0.67	0.23	0.22	0.55
34 あなたは相手が好感を持てるような対応を心がけていますか	0.65	0.04	0.43	0.62
43 あなたはグループ活動の中で、対立した意見や不満を解消しようと心がけていますか	0.60	0.08	0.33	0.47
22 あなたは相手に自分の心を開くことができますか	0.59	0.00	0.12	0.36
42 あなたはグループ活動を行うとき、メンバーを公平に評価できますか	0.57	0.20	0.19	0.40
50 あなたは周囲の出来事・状況を敏感にとらえていますか	0.57	0.29	0.26	0.47
44 あなたは看護学生としての自分の役割を理解していますか	0.53	0.30	0.31	0.47
19 あなたは自分がつらいときでも笑顔で明るくふるまう事ができますか	0.51	0.02	0.25	0.32
51 あなたは、ある出来事に対しての疑問や課題を発見したら、解決に向けての何らかの行動をとりますか	0.49	0.14	0.40	0.42
27 あなたは会話をするとき、相手の話に共感を持って聴くことができますか	0.45	0.32	0.32	0.41
36 あなたは、その場の状況に応じた身だしなみを心がけていますか	0.45	0.00	0.43	0.39
47 あなたは常識的な考え方をしていますか	0.43	0.33	0.25	0.36
46 あなたは家族の一員としての自分の役割を理解していますか	0.41	0.27	0.26	0.31
45 あなたは社会の一員としての自分の役割を理解していますか	0.38	0.29	0.34	0.34
<b>第2因子：科学的思考力に基づいた技能性</b>				
15 患者に安楽な方法で実施できましたか	-0.06	0.69	0.26	0.55
7 実施（実施方法、手順、実施の時間）は原理原則に基づいて実施できましたか	0.09	0.69	0.19	0.52
14 患者にとっての安楽な方法を判断できましたか	-0.10	0.69	0.34	0.60
3 各看護技術の手順について理解できましたか	0.11	0.67	-0.13	0.48
10 実施した技術の結果を客観的に評価できましたか	0.12	0.64	0.04	0.43
5 患者の気持ち、考え、思いや要望を考慮した方法を考えることができましたか	0.00	0.64	0.23	0.46
12 各看護技術を安全に実施する方法を判断できましたか	0.13	0.63	0.17	0.44
8 後始末（物品の後始末、環境整備）は原理・原則に基づいて実施できましたか	0.04	0.60	0.27	0.44
9 患者の反応を観察しながら実施できましたか	0.06	0.60	0.30	0.45
4 患者の身体の状態を考慮した方法を考えることができましたか	0.18	0.56	0.10	0.36
16 看護技術の全実施課程でプライバシーを考慮してできましたか	0.09	0.55	-0.14	0.33
6 準備（看護師の準備、物品・環境の準備、患者の準備）は原理原則に基づいて実施できましたか	0.14	0.54	0.01	0.32
17 実施後の報告の必要性（報告の方法・時期・内容）を理解できましたか	0.23	0.51	0.07	0.32
1 各看護技術を実施する目的について理解できましたか	0.19	0.49	-0.10	0.29
11 各看護技術の実施前に説明（目的、必要性、効果）はできましたか	0.13	0.48	0.06	0.26
<b>第3因子：他者に対する共感性</b>				
31 あなたは相手を立てるといった謙虚さを常に意識していますか	0.19	0.01	0.73	0.57
30 あなたは相手の立場に立ってものごとを考えていますか	0.23	-0.02	0.67	0.50
33 あなたは相手を尊重した態度をとっていますか	0.58	0.05	0.63	0.73
29 あなたは会話をするとき、相手の価値観やあるがままの姿を受け入れて話を聴くことができますか	0.22	0.13	0.59	0.42
32 あなたは相手の質問に対して、丁寧に答えていますか	0.33	0.20	0.57	0.47
24 あなたは会話をするとき、丁寧な言葉遣いで会話をしていますか	0.42	0.07	0.54	0.47
25 あなたは会話をするとき、相手のペースに合わせた会話（声の大きさ、スピード、高音低音）をしていますか	0.32	0.22	0.53	0.44
26 あなたは会話をするとき、あいまいな表現や説明不足による誤解が生じないよう心がけていますか	0.38	0.12	0.49	0.40
23 あなたは普段から、相手に対しての気配りや配慮ができていますか	0.34	0.13	0.48	0.36
53 あなたは、自分の将来の目標を達成するために、自主的な行動がとれていますか	0.38	0.30	0.41	0.41
48 あなたは常に責任を自覚していますか	0.35	0.29	0.41	0.38
20 あなたはどのような状況でも冷静に物事を考えることができますか	0.33	0.14	0.36	0.26
28 あなたは会話をするとき、表情やうなずき、身振り手振りを使って相手に反応を示していますか	0.16	0.25	0.32	0.19
固有値	13.97	4.91	2.15	
寄与率 (%)	31.05	10.90	4.78	
累積寄与率 (%)	31.05	41.95	46.73	
Cronbach α 係数	0.91	0.90	0.90	

## V. 考 察

### 1. [看護学生の看護職者としての資質]の調査結果について(表3)

質問項目全体の平均値は3.21 (SD 0.66)であり、その中でも、技能性のカテゴリーの平均値が3.29 (SD 0.62)と最も高かった。この結果は、本調査を実技試験直後に行ったことが関係していると考えられる。実技試験は、1) ベッドメイキング、2) 洗髪、3) 背部清拭と寝衣交換、4) 血圧測定と足浴の4つの試験項目を設定し、実技試験直前までどの項目が試験項目になるかわからないようにした。実技試験までに4つの試験項目すべてを復習しながら練習することで、学生の技能性が強化され、技能性のカテゴリーの自己評価が高くなったと考えられる。また、ベッドメイキング以外の3つの実技試験の項目については、学生を患者役として設定したので、患者にとっての安全・安楽な方法を判断し実施する、プライバシーへの配慮や実施前の説明などの平均値が高くなったと考える。また、対象学生の技術演習の方法に緒方式ジグソー学習法を取り入れたことも、技能性のカテゴリーの平均値が高くなった要因と考える。これは、グループ内で1人の学生が教師役をしながら技術演習を展開するため、グループのメンバーに教えるという責任感から技能性の習得が高まったことが考えられる。

今回の調査結果では、全体的に肯定的な評価が多かった。このことは上記でも述べたが、調査の時期が実技試験直後であったことが1つの大きな要因であることが考えられる。また、情緒性と関係性の平均値も高いことから、この2つのカテゴリーについても肯定的な評価をした学生が多いことが推察される。情緒性と関係性に関係している質問項目は、看護職者以外の職業でも大いに重要である。しかし、「看護技術の本質は、看護師と病人とのかかわりという具体的な現実(reality)のなかで、自・他を発見し、関係の中で相互に了解しあうという人間的な行為の過程そのものにある」<sup>22)</sup>と考えると、看護職者にとって情緒性や関係性の資質は大変重要である。情緒性と関係性の質問項目が、日常の中で培われていく要素を多く孕んでいるため、看護基礎教育との関連を測ることは非常に困難であるが、日々の講義や技術演習、実習などの様々な教育の場における、教員と学生との人間的なかわりの中から育てていく必要がある。特に、実際に患者とかわることができる、実習での学びの影響が予測される。本研究の対象学生は、7月に1週間の基礎看護

学実習Iを行ったことが、情緒性や関係性の平均値が高い1つの要因を産み出したと考えられる。しかし、今回は1学年の1回の調査結果であるため、今後は早期の基礎看護学実習の中で、どのような経験や体験から看護職者として必要な資質を獲得していくのか、学生の体験を質的に検討し、明らかにしていく必要がある。

### 2. [看護学生の看護職者としての資質]の質問項目の因子構造(表4)

本研究では、看護基礎教育における学生の能力を評価する指標として、[看護学生の看護職者としての資質]の調査票を作成した。この調査票を用いて、対象学生に行った調査結果を因子分析したところ、第1因子「他者理解や関係性を保つための自己理解」、第2因子「科学的思考力に基づいた技能性」、第3因子「他者に対する共感性」の3因子が抽出された。

#### 1) 第1因子「他者理解や関係性を保つための自己理解」について

「他者理解や関係性を保つための自己理解」が第1因子として抽出されたということは、看護は他者理解すなわち他者の内的世界の理解が基本であり、患者と看護師との相互理解のうえに成り立つということが、反映しているといえよう。

因子を構成している項目のうち、他者から親しみや好感をもたれるようにかかわりを持つこと、自分がつらいときでも明るくふるまうことは、他者をケアする上において、他者からどのように見られているか、常に自己のふるまいを意識することが必要であることを示している。相手を信頼することができるか、相手に自分の心を開くことができるかといった項目は、相手との関係性のためだけでなく、相手から必要とされ、また相手を必要とする関係の中で生まれてくる、一種のケアの姿であろう。また、援助的人間関係の形成のために必要なスキルとしてあげられる項目でもある。以上の第1因子の項目は、メイヤロフのいう、「他者のケアをすることにより、また他者を他者たらしめるべく助けることにより、私たちは存在しているのだといえる。相手の自己実現を助けることが、とりもなおさず、私たちの自己実現にもなるのである。」<sup>23)</sup>という言葉に通じるものである。

グループ内での関係性に関する項目は、看護がチームで行われる部分が多いため、患者、家族のみならず、職場のスタッフの中で協働できる看護職者の資質の必要性を示している。また、家族・社会・看護学生とし

ての個々の役割の理解に関する項目は、看護職者としてグループや家族、社会など、ひとつのコミュニティにおける自分の役割を認識し、アイデンティティを形成していく過程において必要である。つまり、自分自身の洞察を深め、自分自身のアイデンティティを確立することで、はじめて自分以外の他者の理解ができるのである。

## 2) 第2因子「科学的思考力に基づいた技能性」について

第2因子「科学的思考力に基づいた技能性」については、看護実践能力の育成に欠くことのできない項目である。看護学の学士課程の到達目標の1つとして、最低限必要な知識と技術を体得し、卒業直後といえども、独力で、または適切な指導・助言の下に看護ケアを実施できること<sup>24)</sup>が挙げられている。このように第2因子は、大学卒業者の看護実践能力を社会に保障するために、教員が学生の能力を適切に把握するうえで必要である。また、安楽や安全面を考慮した方法を考え実施することや、患者の気持ち、考え、思い、要望を考慮しながら、プライバシーを配慮すること、実施に際しての説明を行い、患者の反応を見ながら実施する等の項目は、単に知識と技術だけでなく、患者のニーズを常に考慮し、人権尊重や権利擁護の観点からも重要である。また、原理原則を踏まえた上で、患者に適切な看護実践を行えるという項目は、患者にとってどのような看護技術が必要とされるのか、必要とされるその根拠を明確にし、論理的な思考のもとで、実践できることが看護職者に求められていることを示している。科学的思考の有用性として、中西<sup>25)</sup>は、事実に対する態度として実際場面で発揮されることが多いと述べており、第2因子は、演習や実習での経験を処理する際に必要な論理的思考であるといえる。したがって、第2因子の項目の評価は、単元毎の演習終了時や、実習終了後に行うと、学生の自己評価が到達度として反映されやすいと考えられる。今回、既習単元の技術習得を総合的に評価する1年生後期の実技試験終了後に、この調査を行ったことは適切であったといえる。

また看護実践能力の評価は、実際に行っている行動を見て評価することが望ましいため、実技試験や実習評価などの教員の客観的な評価とあわせて、学生個々を評価する際に用いることが最も有効な使用方法であると考えられる。その際には、調査時点での到達度を評価の視点として、調査対象者に明確に示しておく必要がある。

## 3) 第3因子「他者に対する共感性」について

相手の立場に立って物事を考えたり、相手を尊重し、相手の価値観やあるがままの姿を受け入れるといった項目は、コミュニケーションの基本であり、他者の準拠を受け入れ、対人関係の発展のために重要なスキルであるといえる。また、相手の質問に対し丁寧に答えている、言葉遣いや会話のペースを合わせる、相手に伝わるような表現をし、説明を十分に行う等の項目は、患者への配慮として、援助的人間関係を持つうえでの基本的な態度である。これらの項目に示されていることは、他者との共感性を高めるかかわりであるといえよう。共感性について、中西<sup>26)</sup>は、他者の内的世界の現実を自己の現実として感ずる能力であり、他者の痛み（肉体的なそれとは限らない）に対する鋭敏さであると述べている。つまり看護職者自身の共感性が他者の言葉や動きの意味を把握して、適切に反映していく、このことが共感性であろう。共感性は患者と看護者の関係成立の基本である。患者の気持ちを感じ取り、それが患者そのものであると、あるがままを受け止め、理解することによって、患者へのなすべきケアを理解できるのである。

また、共感的なかわりを行ううえで大変重要なのは、他者とのかわりを感じる矛盾を敏感にとらえる、文脈を理解する能力である。他者とのかわりの中で感じる何らかの違和感、そこに他者の気持ちの矛盾があるということをとらえることができる能力である。この能力は、他者から送られる情報の意味をいかに敏感に読み取れているかが重要である。第1因子の、周囲の状況を敏感にとらえるといった項目はこの文脈を理解する能力に関係している。また、状況を敏感にとらえるには、自分自身の心の安定が重要であり、自分自身のことをどのくらい理解できているかという、第1因子の「他者理解や関係性を保つための自己理解」と大きく関係するといえる。加えて、第1因子と第3因子は看護職者にとって必要な項目であることは間違いないが、個々の自己効力感や自尊感情の影響が考えられ、個人差が大きいように思う。従って、看護基礎教育における教育的な介入が難しい資質であることから、今後も継続して検討する必要性が示唆された。

## VI. おわりに

本研究では、「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」<sup>2)</sup>と、「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」<sup>3)</sup>で報告された内容を反

映した、[看護学生の看護職者としての資質]の3つの因子を抽出することができた。しかし、本研究は、1看護系大学の1学年の学生を対象とした研究の結果であり、[看護学生の看護職者としての資質]の調査票の概念構造に関しては、質問項目間の因子構造を検討しながら、教育評価として用いることのできる尺度開発を行っていくことが課題である。

今後もこの研究を縦断的に行っていき、対象学生の傾向を把握し、看護基礎教育に生かしていくためには、学生がどのような教育場面で、経験の「看護的な意味づけ」<sup>27)</sup>がなされたのかといった、質的な研究を同時に進めながら検討する必要がある。

#### 謝 辞

本研究を行うにあたり、調査を快く受けてご協力頂きました学生の皆様に心からお礼と感謝を申し上げます。

#### 引用文献

- 1) 看護学教育の在り方に関する検討会 報告：大学における看護実践能力の育成の充実に向けて。平成14年3月26日、看護教育2002；43（5）：411。
- 2) 看護学教育の在り方に関する検討会 報告：大学における看護実践能力の育成の充実に向けて。平成14年3月26日。
- 3) 看護学教育の在り方に関する検討会 報告：看護実践能力育成に充実に向けた大学卒業時の到達目標。平成16年3月26日。
- 4) 岩本真紀，南 妙子，近藤美月，宮川有紀，近藤裕子。看護技術習得に関する教育方法の検討 学生リーダーの指導によるグループ学習と個人学習を組み合わせて。香川医科大学看護学雑誌2004；8（1）：13-25。
- 5) 中山栄純，滝内隆子，金若美幸。看護技術教育における検証的方法を取り入れた授業評価 実験導入の効果について。日本看護学会論文集（看護教育）2003；34：189-91。
- 6) 澁谷 幸，中田康夫，田村由美，中山由美，石川雄一，津田紀子。看護教育研究 模擬患者を導入したコミュニケーション演習の意義 学生の受け止め方に対する分析をとおして。看護教育2005；46（7）：564-79。
- 7) 坂下玲子，内布敦子，桐村智子，加治秀介。看護形態機能学における教育方法の検討 模擬患者にみる受講生の反応から。兵庫県立大学看護学部紀要2005；12：23-36。
- 8) 小八重和子，灘波浩子，東本 美。臨床実践能力を育む臨床実習のあり方 知識と実践をつなげるための学習方法。看護教育2005；46（3）：242-7。
- 9) 奥津文子，片山由美，赤澤千春。効果的な臨床実習

- 指導方法の検討(Ⅱ) 学生の自己効力感と実習目標到達度からの一考察。京都大学医療技術短期大学部紀要2003；23：23-32。
- 10) 市江和子，柿原加代子，渡辺雅子，葛山峰子，村上ちづこ，大須賀和子。看護学生の職業意識形成過程教育課程別の比較。看護教員と実習指導者2004；1（2）：104-11。
- 11) 米田昌代，佐々木栄子，滝内隆子，小松妙子，中山栄純，天津栄子。看護大学生の看護職イメージに関する研究（第1報）——I大第1回生1年次に焦点を当てて——。看護展望2003；28（10）：86-91。
- 12) 米田昌代，佐々木栄子，中山栄純，金若美幸，田村幸恵，滝内隆子，小松妙子，川島和代，天津栄子。看護大学生の看護職イメージに関する研究（第2報）——自己効力感との関連に焦点を当てて——。看護展望2003；28（10）：92-8。
- 13) 真鍋淳子，野尻雅美，中野正孝，桂 敏樹，酒井郁子。看護学生の看護婦イメージ 大学生と短大生の比較。看護教育1994；35（6）：427-33。
- 14) アロンソン・エリオット，松山安雄訳。ジグソー学級 生徒と教師の心を開く共同学習法の教え方と学び方。東京：原書房；1986。
- 15) 河合伊六，松山安雄。現代教育心理学図説。京都：北大路書房；1990。
- 16) 緒方 巧。緒方式ジグソー学習法による基礎看護技術の教育方法 ベッドメイキングの演習授業の分析。看護教育2004；45（1）：73-7。
- 17) 緒方 巧，上野範子，山口智子，辻野朋美，矢野正子。緒方式ジグソー学習法による基礎看護技術の習得度の評価 ——バイタルサイン，ベッドメイキング，身体の清潔の分析——。日本看護学教育学会誌2005；15：141。
- 18) 緒方 巧，上野範子，辻野朋美，山口智子，矢野正子。緒方式ジグソー学習法による基礎看護技術演習の評価 ——バイタルサインの教育効果——。日本看護研究学会雑誌2005；28（3）：115。
- 19) 河津芳子，任 和子。看護婦に求められる資質 ——一般人，医師，看護婦，看護教師への意識調査を踏まえて——。日本看護医療学会雑誌2000；2（1）：9-15。
- 20) 田島桂子。看護教育評価の基礎と実際。東京：医学書院；1989。
- 21) 舟島なをみ，杉森みど里。看護学教育評価論。東京：文光堂；2000。p.11-2。
- 22) 池川清子。看護 生きられる世界の実践知。東京：ゆみる出版；2003。p.96。
- 23) ミルトン・メイヤーロフ，田村真，向井宣之訳。ケアの本質 生きることの意味。東京：ゆみる出版；1993。p.70。
- 24) 前掲1) p.413。
- 25) 中西睦子。臨床教育論。東京：ゆみる出版；1985。p.34。
- 26) 前掲25) p.49。
- 27) 藤岡完治，堀喜久子。看護教育の方法。東京：医学書院；2002。p.118。